

【対馬の三病院の経営は】

民間ならば大赤字？

対馬市議会議員 十番 小宮教義

対馬の病院は、黒字経営とよく聞くが本当に黒字なのか検証してみました、対馬の三病院は、二年程前に離島医療圏組合から、長崎県病院企業団となり、十一施設の内、三施設(病院)を対馬が担っています、病院とは、医療法で、ベッド数二十以上の医療機関を意味し、現在対馬に於いては他に病院は存在しません。国の財政措置から分類をすると、上対馬病院は不採算地区病院第一種、中対馬病院は同二種、厳原病院は、地区適用外病院に当たります、黒字だと言うその内容を、二十二年度決算を参考に経営内容を見てみます。(別表参照)三病院全体の損益計算では、二億九千六十六万円の黒字(純利益)、内訳は上対馬 1 千九十八万円、中対馬四千六百七十三万円、いづはら二億三千二百九十四万円、各病院全て黒字です。しかし別表で解るように、病院本来の純利益とは、医業収益から費用を差引いた金額であり、医業収益、五十五億二千七百六十三万円、から費用六十三億六千二百五十七万円を差引くと、赤字の八億三千四百九十四万円と驚愕する金額となります。この穴を埋めるのが何と、医業外収益十一億二千五百六十万円です、その内、対馬市の負担金、補助金は十億一千九十万円、十億円を越える巨額の金額です。民間の病院では、医業収益から費用を差引いたのが純利益です、市の負担額が無ければとうの昔に倒産しています、市の負担金の内、国から市に地方交付税で離島医療確保安定化経費(ベッド一床につき七十万一千円)が交付されますので、市の負担額は二億一千九百八十三万円となります。新病院ベッド数は現在より減六十三床であり、交付金(安定化経費)が四千四百十六万円減額になります、再度確認しますが、民間ベースでは、大赤字の八億三千四百九十四万円となり離島医療機関経営の難しさを痛感させます。医療対策が頻繁に変わる中、新病院建設に、市民の血税が無駄にならない様、病院企業団と対馬市(ナマズ市政)に平伏せて恩願い奉ります。